



スノーシューの魅力！

前日本銀行 仙台支店長 橋本 要人

昨秋「スノーシュー」なるものを購入しました。前任地・松本のときに白馬マイスターの案内で初体験した魅力が、東北の雪上で昇華されたからです。未だ聞きなれない言葉かもしれませんが、「スノーシュー」とは、雪のフィールドを歩くための道具で「西洋式かんじき」と言えばわかりやすいでしょう。素材の進歩と人間工学の導入によってこの十年間にアメリカで飛躍的な進化を遂げ、ウォーキングは勿論、急峻な登坂や、長距離を走れるようにまできています。雪上でのウォーキングやランニングは、ローインパクトで、運動量も倍化し、エアロビクス運動としても優れています。そして何よりも気軽に雪の自然の素晴らしさを体感できるのが魅力です。



スノーシュー



上高地にて

川の上を独占した気分、雪中に音が吸収される静寂の中をスノーハイクすると、普段と違う角度から冠雪に輝く北アルプスの山々を臨むことができ、全てを忘れさせる感動の風景です。

東北に来て昨冬は、月山、磐梯山をはじめ、蔵王の樹氷見学、作並の滝探索や秋保の冬芽観察など、ガイド付きツアーに数多く参加しました。今冬は雪不足で出鼻を挫かれましたが、オニコウベ・ゴルフ場でマイ・スノーシューによる初ハイク。最初はハーフぐらいと意気込んでスタートしたものの、クラブハウスまでの予想外の道のりに加え、雪が重くて、自らラッセルしなければならなかったため、3ホールでギブアップしてしまいました。ピンが立っていないゴルフ場を只管歩く光景は第三者的にみれば滑稽かもしれませんが、ガイドなしで安全に楽しむにはゴルフ場が一番と考えた訳です。歩ける人なら誰でも簡単に楽しめるスノーシューですが、冬の厳しい大自然の中ですから、体力のみならず、自然やフィールドマナー、それに安全に関する知識、経験が不可欠です。

トレッキングに嵌ると、いつのまにか高山植物や地形などに関心が高まりますが、冬の自然では雪の上に残された動物の足跡やフン、雪の下で春を待つ植物の様子などにも興味が広がっていきます。そうした知的興味の裾野も広げながら、春先に八甲田山のスノートレッキングに挑戦しようと虎視眈々と計画しているアクティブ・シニアの実像です。



秋保熊沢林道にて